

# クレーム分析支援ツール

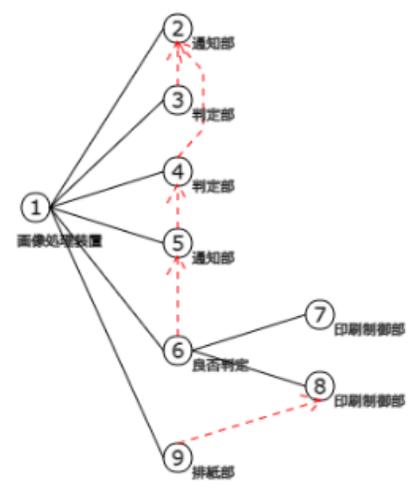
数多くのクレームを持つ特許文献のクレーム分析や、記載が類似するクレーム間の差分比較などは、すべて人手で行うと大変時間がかかる作業です。本クレーム分析支援ツールは、クレームの構造・ポイント・差分を「見える化」することで、上記作業を効率化するツールです。主な機能は以下の通りです。

## 1. クレームツリーを表示

クレーム間の引用・被引用関係をもとに、クレームの集合をグラフとして表示します。これにより、クレームのテキストを精読することなく、クレーム全体の関係を一目で把握することができます。また、表示されたツリーはExcelに取り込んで編集することもできます(\*1)。

請求項
【請求項1】印刷物を出力する印刷部と、前記印刷物を読み取って読取画像を取得する読取部と、前記読取画像を解析して画像異常を検出し、前記印刷物の良否を判定する判定部と、判定結果に基づいて、前記印刷物を良品と不良品とに振り分けて排紙する排紙部と、前記画像異常の検出結果を表示部に表示させ、前記画像異常の検出閾値及び／又は検出項目の変更を受け付ける通知部と、を備え、前記判定部は、前記画像異常の検出閾値及び／又は検出項目が変更された場合に、排紙済みの印刷物の再判定を行い、前記通知部は、良否判定が変更された印刷物の出力位置を通知する、ことを特徴とする画像処理装置。
【請求項2】前記通知部は、初回判定時の前記画像異常の検出結果と再判定時の前記画像異常の検出結果とに基づいて、前記良否判定が変更された印刷物を特定し、排紙済みの印刷物の枚数から前記良否判定が変更された印刷物の出力位置を算出し、前記算出した出力位置を通知する、ことを特徴とする請求項1に記載の画像処理装置。
【請求項3】前記判定部は、前記読取画像と変更された前記画像異常の検出閾値及び／又は検出項目とに基づいて再判定を行う、ことを特徴とする請求項1又は2に記載の画像処理装置。
【請求項4】前記判定部は、初回判定時の前記画像異常の検出結果と変更された前記画像異常の検出閾値及び／又は検出項目とに基づいて再判定を行う、ことを特徴とする請求項1又は2に記載の画像処理装置。
【請求項5】前記通知部は、再判定時に、初回の判定によって良品と判定され

▲ 番号をクリックするとテキストがスクロールします。  
 番号の右下のテキストは、ドラッグで移動できます。(右クリック)



## 2. 独立クレームを区別して表示

独立クレームの表示スタイルを変えることで、独立クレームだけを選択的に読むことができます。表示スタイルは、背景色、太枠、太字、文字の色を好みに合わせて複数設定することが可能です。

(\*1)Japioが提供するExcelのアドインをインストールしていただく必要があります。

### 3. 各クレームの特徴的な用語を自動抽出して表示

各クレームから、そのクレームを特徴づけている用語を抽出して、クレーム番号付近に表示します。これにより、各クレームのポイントがクレームツリーから容易に把握することができます。また、抽出された用語を修正したり、表示位置を変えることもできます。

<p>【請求項2】前記通知部は、初回判定時の前記画像異常の検出結果と再判定時の前記画像異常の検出結果とに基づいて、前記良否判定が変更された印刷物を特定し、排紙済みの印刷物の枚数から前記良否判定が変更された印刷物の出力位置を算出し、前記算出した出力位置を通知する、ことを特徴とする請求項1に記載の画像処理装置</p>	
<p>【請求項3】前記判定部は、前記読取画像と変更された前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目とに基づいて再判定を行う、ことを特徴とする請求項1又は2に記載の画像処理装置。</p>	
<p>【請求項4】前記判定部は、初回判定時の前記画像異常の検出結果と変更された前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目とに基づいて再判定を行う、こ</p>	

### 4. クレームのスピーディーな閲覧を支援

ツリー内のクレーム番号をクリックすると、そのクレームが表示される位置までクレーム表示がスクロールします。これにより、読みたいクレームをすぐに読むことができます。

Japioクレーム分析支援ツール

< >
文字大 文字小 表示設定 クレームツリーの印刷

↑

②スクロール

【請求項9】食品又は不食品として排紙された複数の印刷物を給紙する給紙部と、前記給紙部から給紙された印刷物の枚数をカウントするカウンタと、を備え、前記給紙部は、前記良否判定が変更された印刷物の出力位置と前記カウンタのカウント値とを参照して、前記複数の印刷物を再度、良品と不良品とに分けて排紙する、ことを特徴とする請求項1乃至8のいずれか一に記載の画像処理装置。

【請求項10】画像処理装置における検査方法であって、印刷物を出力する印刷処理と、前記印刷物を読み取って読取画像を取得する読取処理と、前記読取画像を解析して画像異常を検出し、前記印刷物の良否を判定する判定処理と、判定結果に基づいて、前記印刷物を良品と不良品とに分けて排紙する排紙処理と、前記画像異常の検出結果を表示部に表示させ、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目の変更を受け付ける通知処理と、を実行し、前記判定処理では、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目が変更された場合に、排紙済みの印刷物の再判定を行い、前記通知処理では、良否判定が変更された印刷物の出力位置を通知する、ことを特徴とする検査方法。

【請求項11】前記通知処理では、初回判定時の前記画像異常の検出結果と再判定時の前記画像異常の検出結果とに基づいて、前記良否判定が変更された印刷物を特定し、排紙済みの印刷物の枚数から前記良否判定が変更された印刷物の出力位置を算出し、前記算出した出力位置を通知する、ことを特徴とする請求項10に記載の検査方法。

①クリック

## 5. クレーム間の差分を表示

指定したクレーム間での差分を表示できます。これにより、記載内容が類似するクレーム間の微差も簡単に把握することができます。複数個のクレーム同士を比較することもできます。

クレームの比較 ✕

比較対象1: 1 変更

比較対象2: 10 変更

【請求項1】印刷物を出力する印刷部と、前記印刷物を読み取って読取画像を取得する読取部と、前記読取画像を解析して画像異常を検出し、前記印刷物の良否を判定する判定部と、判定結果に基づいて、前記印刷物を良品と不良品とに振り分けて排紙する排紙部と、前記画像異常の検出結果を表示部に表示させ、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目の変更を受け付ける通知部と、を備え、前記判定部は、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目が変更された場合に、排紙済みの印刷物の再判定を行い、前記通知部は、良否判定が変更された印刷物の出力位置を通知することを特徴とする画像処理装置。

【請求項10】画像処理装置における検査方法であって、印刷物を出力する印刷処理と、前記印刷物を読み取って読取画像を取得する読取処理と、前記読取画像を解析して画像異常を検出し、前記印刷物の良否を判定する判定処理と、判定結果に基づいて、前記印刷物を良品と不良品とに振り分けて排紙する排紙処理と、前記画像異常の検出結果を表示部に表示させ、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目の変更を受け付ける通知処理と、を実行し、前記判定処理では、前記画像異常の検出閾値及び/又は検出項目が変更された場合に、排紙済みの印刷物の再判定を行い、前記通知処理では、良否判定が変更された印刷物の出力位置を通知することを特徴とする検査方法。

## 6. 異なる文献のクレームを比較

下の例のように、クレームテキスト入力欄を2つ備えており、異なる文献のクレームの分析を行うこともできます。これにより、例えば、関連出願等で記載内容が類似する文献間であっても、差分を簡単に把握することができます。



### Japioクレーム分析支援システム(日本語用)

クレーム入力欄(日本語) :

【請求項1】対象物のスペクトル情報を分光スペクトル画像として分光カメラを用いて取得し、前記分光スペクトル画像において、前記対象物と、前記対象物の背景とを検出する画像検査を実行し、前記対象物と、前記対象物の背景とのコントラストが所定の値より高い高コントラスト波長を特定する検出工程と、前記高コントラスト波長を用いて、前記対象物の単色画像を取得し、前記単色画像において、前記対象物と前記対象物の背景との境界部を特定する取得工程とを有することを特徴とする分光検査方法。

【請求項2】前記検出工程は、前記分光スペクトル画像において、前記対象物と重なる第1点における第1分光スペクトル情報と、前記対象物の背景と重なる第2点における第2分光スペクトル情報とを比較することで、前記高コントラスト波長を特定することを特徴とする請求項1に記載の分光検査方法。

【請求項3】前記取得工程は、前記単色画像において、前記対象物と重なる第1通過点と前記対象物の背景と重なる第2通過点とを結ぶ直線を設定し、前記直線上の輝度の変化点を検出することで前記境界部を特定することを特徴とする請求項1または2に記載の分光検査方法。

第2文献のクレーム入力欄(別の文献のクレームと比較する時) :

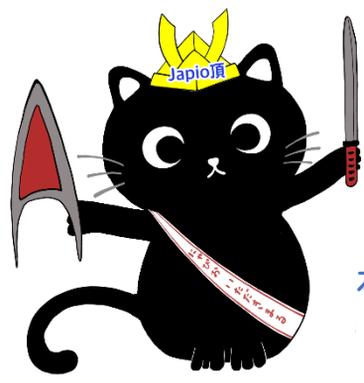
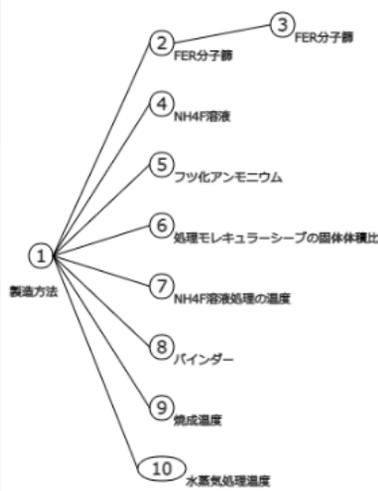
【請求項1】ロボットアームと、前記ロボットアームに配置された分光カメラと、を用いて、作業台に設置された対象物の分光スペクトル画像を取得する分光検査方法であり、前記分光カメラの光軸方向における、前記対象物と、前記分光カメラとの間の距離を変化させ、第1波長において、前記分光カメラのフォーカスが前記対象物に合う第1位置で、前記第1波長における第1分光画像を取得し、前記第1波長より長い波長である第2波長において前記分光カメラのフォーカスが前記対象物に合う第2位置で、前記第2波長における第2分光画像を取得する撮像工程と、前記第1分光画像に含まれる前記対象物の大きさに対し、前記第2分光画像に含まれる前記対象物の大きさが同一となるように前記第2分光画像を拡大した後に、拡大された前記第2分光画像を重ね合わせることで、前記分光スペクトル画像を取得する重畳工程と、を有することを特徴とする分光検査方法。

【請求項2】前記撮像工程において、前記ロボットアームの駆動により、前記光軸方向における、前記分光カメラと前記対象物との間の距離を変化させる請求項1に記載の分光検査方法。

【請求項3】前記撮像工程において、前記第1波長と、

以上ご説明したクレーム分析支援ツールは、日本語のクレームを対象としたものです。外国語文献を対象としたクレーム分析支援ツールは現在研究開発中です。どうぞ、ご期待ください。

請求項	請求項
1. 一种直链烯烃骨架异构化催化剂的制备方法, 其特征在于: 具体合成步骤如下: (1) 将合成的 FER 分子筛, 用 HF/NH <sub>4</sub> F 溶液在 30~90℃ 下处理 0.1~10 小时; (2) 将步骤 (1) 的产物洗涤至中性, 挤条成型后, 用硝酸铵溶液交换、过滤, 并用去离子水洗涤、干燥、焙烧; (3) 将步骤 (2) 所得样品在 400~700℃ 下, 用水蒸气处理 1~8 小时, 制备得到异构化催化剂。	1. 直鎖オレフィン骨格異性化触媒の製造方法であって、以下を特徴とする製造方法: 具体的な合成手順を以下に示す: (1) 合成 FER モレキュラーシーブは、30~90℃ で 0.1~10 時間、HF/NH <sub>4</sub> F 溶液で処理される; (2) 工程 (1) の生成物を中性にまで洗浄し、押出成形後、硝酸アンモニウム溶液で交換し、濾過し、脱イオン水で洗浄し、乾燥させ、焼成した; (3) (異性化触媒の調製) 工程 (2) で得られたサンプルを、400~700℃ で、水蒸気で 1~8 時間処理して、異性化触媒を得た
2. 按照权利要求 1 所述直链烯烃骨架异构化催化剂的制备方法, 其特征在于: 所述步骤 (1) 中所述 FER 分子筛为通过各种合成路线得到的具有 FER 拓扑结构的分子筛。	2. 請求項 1 に記載の直鎖オレフィン骨格異性化触媒の製造方法であって、以下を特徴とする: ステップ (1) において、FER 分子篩は様々な合成経路により FER トポロジーを有するモレキュラーシーブである。
3. 按照权利要求 2 所述直链烯烃骨架异构化催化剂的制备方法, 其特征在于: 所述步骤 (1) 中所述 FER 分子筛为稀土 FER 分子筛, 稀土含量为 0.01-5.0wt%。	3. 請求項 2 に記載の直鎖オレフィン骨格異性化触媒の製造方法であって、以下を特徴とする: ステップ (1) において、FER 分子篩は希土類 FER 分子篩であり、そして希土類含有率は 0.01-5.0wt% である。
4. 按照权利要求 1 所述直链烯烃骨架异构化催化剂的制备方法, 其特征在于: 所述步骤 (1) 中的	4. 請求項 1 に記載の直鎖オレフィン骨格異性化触媒の製造方法であって、以下を特徴とする:



本ツールはGoogle Chromeブラウザのご使用を推奨いたします。